

「ふるさとになれるまち」 ～暮らすように旅をする～

～点から面へ、古い家や谷中のまちに込められた暮らしの文化を守り活かす～

椎原晶子 地域プランナー・谷中学校運営人
NPO たいとう歴史都市研究会 理事長 (株) まちあかり舎 取締役
晶地域文化研究所代表 技術士 (都市及び地方計画)
東京藝術大学・首都大学東京 非常勤講師

はじめに：地域に学んで地域に還す：第一、第二のふるさとづくり

1. Evaluation まずは価値観の変換から

地域文化の掘起こしと地域団体の連携～ (変化の激しい東京の中で)

- ・ 谷中菊まつり 1984～
- ・ 地域雑誌『谷中根津千駄木』1984～2009
- ・ 地域団体・大学の連携「親しまれる環境調査」1986～1988

歴史、路地、建物、自然、遊び、思い出。→冊子や写真にまとめてまちで発表

2. Action 波紋をひろげる：「まちに学んでまちに還す」『谷中学校』のとりくみ

- ・ まちを知る (歴史講座、建物調査、谷中芸工展、谷中ジャングル探検隊、谷中すご六 etc)
- ・ まちに提案 (歴史的建物の保全、マンション計画見直し、路地や緑の保全 etc)
- ・ まちとひとをつなぐ (新旧住民交流、お祭り参加、子供イベント etc)
- ・ まちじゅう展覧会『谷中芸工展』1993～ まちの手作り文化再発見・発信!

3. Preparation 布石を打つ：点から面への活性化

- ・ 歴史的建物の保全活用：まちの生活文化の体験モデル拠点づくり
- ・ 新しい集住の形：地域共生型集合住宅の効果

4. Motivation 自ら動くプレイヤーを増やす

- ・ 自分が動機ですまいづくり、まちづくりに関わる。
- ・ 持ち主も借り主も主役になれる建物活用、住まい方、働き方

5. Vision 方向性を共有する

- ・ ルールを明文化する～マンション見直し運動から建築協定、面的都市計画へ
- ・ 安心して歩けるまちづくりへ：スピード抑制、車止めの社会実験から

6. Sustainability 持続性あるまちへ

- ・ 次世代に受けつぐ ～子供たちとまちと住まい体験：「寺子屋」、「たねっこ」
- ・ 地域ぐるみのまちぐるみにむけて～行政・地域団体・専門家・有志の連携
- ・ 法制度・金融・コミュニティで支える、歴史文化資源の保全活用、防災対策

キーワード

まちに学んで、まちに還す
まちの誇りを次世代に受け継ぐ
安心できる、楽しいまち
ふるさとをつくる

■ 谷中地区のまちづくり活動の流れ

(住民組織成立の経緯、地域、NPO、自治体などの活動経過)

椎原晶子

1 まちづくりのきっかけ

- 1) 1970年代後半オイルショック後、まちと自分たちの暮らしを共に活かすため、地域の特色を活かしたまちづくりを有志が開始。(谷中銀座商店会、三崎坂商店会・大円寺菊まつり・全生庵円朝まつり、外国人旅館、ギャラリー等)
- 2) 1979年、区立谷中コミュニティセンター建設と共に谷中コミュニティ委員会結成。
- 3) 1984年、谷中菊まつりの開始。地域雑誌『谷中根津千駄木』創刊。
- 4) 1989年、地域と大学の共同調査から、まちづくりグループ『谷中学校』誕生。まちの良さの再発見、まちへの提案、まちの人と人をつなぐ活動を展開
- 5) 2000年マンション見直しを機に住民の結束高まり、台東区もまちづくり事業開始。

2 住民や地域ファンによる様々な組織が継続・誕生

- 1) 町会の活動が盛ん。14町会で谷中地区連合町内会をつくり台東区と連携。
- 2) 1979年、区立谷中コミュニティセンター建設と共に谷中コミュニティ委員会結成。
- 3) 2000年、谷中地区まちづくり協議会結成。町会・商店会・下谷仏教会、コミュニティ委員会で構成。防災部会、交通部会、環境部会等、部会ごとにテーマ活動。
- 4) 2003年～まちづくり支援NPOが誕生。ひとまちCDC、たいとう歴史都市研究会。
- 5) 手作りの店や個性ある本屋、カフェ、ギャラリーの増加。様々なネットワークの誕生。例) 芸工展、art-Link 上野谷中、不忍ブックストリート、一箱古本市、谷根千おしょくじ、谷中のおかって(アートとまちをつなぐ)等。
- 6) 教育や子育て世代のネットワークも増加 例) 台東区歴史文化探検隊、谷根千自主保育の会「たねっこ」、台東区家庭教育学級「親子でどんぶらこ」、NPO こどもワカモノまちing、谷中ベビママなど。

3 地域や自治体のまちづくりのとりくみ

- 1) 1993年～まちじゅう展覧会「谷中芸工展」開催。新旧住民・来街者交流の場。
- 2) NPOによるまちづくり支援、資源再発見「いいところ探し」、歴史的建物保全活用。
- 3) 2000年～マンション見直しを期に、まちづくり憲章、建築協定等締結。
- 4) 2001年～台東区が密集市街地整備促進事業とまちづくり調査開始。2007年～まちづくり交付金事業。電線地中化、交通安全対策、案内板、まちなみルールづくり
- 5) 2004年 谷中地区の都市計画道路がまちづくりに併せて見直す路線となる。
- 6) 2013年 ヒマラヤ杉と寺町谷中を守る会発足。樹木、寺と住まいの風情、住人と住まい方を継承できるしくみを模索中。2015年「谷中ヒマラヤ杉基金」設立。
- 7) 2013年～都・区の防災対策推進。地域から路地と木造を活かす防災の検討。
- 8) 2015年～「東京文化資源会議」発足。谷中でも防災と文化資源両立を検討中。
- 9) 2016年～都市計画道路見直しに伴い区と住民による「谷中まちづくり方針」策定→
- 10) 2017年～防災と歴史文化を両立する地区計画、各種保全型制度、暮らしの作法等の検討
- 11) 2017年(株)まちあかり舎設立。家主と入居者をつなぐサブリース事業を中心に展開。
- 12) 2018年 民都機構と朝日信用金庫により古民家再生「谷根千まちづくりファンド」創設

4 今後の課題

- 1) 防災と交通安全、歴史や文化をいかしたまちづくりの両立。
- 2) 住民主体のまちづくり推進、若い世代のまちづくり活動への参加。
- 3) 急増する観光客が、地域の人との交流を通して、まちを楽しみ、大事にできること。
- 4) 地区の特徴を活かすまちづくりに向けた行政・偉業の協力(法制度改革・施策・投融资等)